慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	日本語表記システムの歴史的研究
Sub Title	Historical study of Japanese writing systems
Author	屋名池, 誠(Yanaike, Makoto)
Publisher	慶應義塾大学
Publication year	2020
Jtitle	学事振興資金研究成果実績報告書 (2019.)
JaLC DOI	
Abstract	現代でも祝詞などに用いられている「宣命書き」は、主に概念要素を表意の漢字で大きく書き、これも主に文法的機能要素を表音の漢字（「万葉仮名」）で小さく書き分けるもので、後者を平仮名に代えれば現代語の表記にきわめて近い、きわめて機能的な表記法であったが、その代表的な文献であり「宣命書き」という名称の由来にもなった『続日本紀』の宣命は、その大字・小字の使い分け基準は、江戸時代以来研究が続けてこられたにもかかわらず、細部まで明確にはなっていなかった。本研究では、時期によって書き分け基準が異なることを示すとともに、その送り仮名法も整理し、はじめて『続日本紀』宣命の表記システムを明示した。 For the first time in this research, "Semmyō-gaki" writing system in "Shoku Nihongi" that could not be completely described since the Edo period were specified.
Notes	
Genre	Research Paper
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=2019000007-20190123

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

2020 年 3 月 22 日

2019 年度　学事振興資金（個人研究）研究成果実績報告書

研究代表者	所属	文学部	職名	教授	補助額	300 （A） 千円
	氏名	屋名池 誠	氏名（英語）	Makoto Yanaike		

研究課題（日本語）

日本語表記システムの歴史的研究

研究課題（英訳）

Historical Study of Japanese Writing Systems

１．研究成果実績の概要

現代でも祝詞などに用いられている「宣命書き」は、主に概念要素を表意の漢字で大きく書き、これも主に文法的機能要素を表音の漢字（「万葉仮名」）で小さく書き分けるもので、後者を平仮名に代えれば現代語の表記にきわめて近い、きわめて機能的な表記法であったが、その代表的な文献であり「宣命書き」という名称の由来にもなった『続日本紀』の宣命は、その大字・小字の使い分け基準は、江戸時代以来研究が続けてこられたにもかかわらず、細部まで明確にはなっていなかった。本研究では、時期によって書き分け基準が異なることを示すとともに、その送り仮名法も整理し、はじめて『続日本紀』宣命の表記システムを明示した。

２．研究成果実績の概要（英訳）

For the first time in this research, "Semmyō-gaki" writing system in "Shoku Nihongi" that could not be completely described since the Edo period were specified.

３．本研究課題に関する発表

発表者氏名（著者・講演者）	発表課題名（著書名・演題）	発表学術誌名（著書発行所・講演学会）	学術誌発行年月（著書発行年月・講演年月）
屋名池誠	続日本紀の「宣命書き」システム	『藝文研究』117 号	2019 年 12 月